

北九州市立
文学館

友の会会報

第15号

2022年9月

- 2面 活動報告2題
- 3面 小倉昭和館復活を願う
- 4面 22年度総会報告

北九州市立文学館を支えているのが3人の学芸員。でもどういったことをやっているのか、詳しく知る人は少ないのではないのでしょうか。そこで編集委員らが3人にインタビュー。普段なかなか聞けない仕事の中身や各自の担当などについて、いろいろな質問を投げかけました。
(文責・植田詩生)

展覧会開催 1年がかりで 文学館を支える学芸員に聞く



左から小野芳美さん(学芸員歴23年目)、
稲田大貴さん(同11年目)、小野恵さん(同11年目)

土台は資料収集、整理保管

まずは、そもそもどんな仕事をしているのか。稲田大貴さんによると、学芸員とは博物館の4大機能「資料収集」「整理保管」「調査研究」「教育普及」を担う専門的な職員とのこと。館の収集方針に沿った資料を集め、それらの整理保存のために収蔵庫を整理し、資料を適切な形で保存する。さらには個々の資料を研究

し、展覧会をつくり、講座を行うことなどが主な仕事だといいます。

「基本的に展覧会をいつも1、2本抱えている状態なので、それに関する調べ物が一番多い。オリジナル展を組む場合は1年以上、バック展の場合も約1年前から情報を集めています」とのことです。

3人が担当する作家・ジャンルについても聞きました。文学館の常設展示「北九州の文学者たち」で紹介されている作家6人と「北九州の文学のあゆみ」のうち▽稲田さんは火野葦平、宗左近と散文・詩▽小野恵さんは林芙美子と現代作家、児童文学▽小野芳美さんは森鷗外、杉田久女、橋本多佳子と短歌、俳句、川柳、近代以前の文学——をそれぞれ受け持っているそうです。

この会報が発行される頃に行われている展覧会は9月10日からの企画展「祈り・藤原新也」展。担当する小野芳美さんは「北九州市立美術館と文学館の初めてのタイアップ企画。美術館分館と文学館の展示を両方見ること、藤原さんのお仕事の全貌がわかるようになっていきます。」

藤原さんが門司出身でいらっしやることから、今川英子館長の強い思いで始まった企画です。藤原さんの全仕事を対象とした展覧会は初めてです。お見逃しなくとのことでした。

表に見える展覧会の仕事は分かりやすいものですが、小野恵さんは「展覧会は資料整理という土台があってこそ」と言います。「寄贈資料を整理するときは、将来的に展覧会に生かしていくことを念頭に行う。資料整理は学芸員にとって核となる仕事のひとつ」だと話しました。

担当する作家・ジャンルで友の会の会員に薦めたい本を尋ねたところ、稲田さんは「やっぱり代表作になりますかね。宗左近であれば『炎』『もえる母』『響灘』、火野葦平であれば『花と龍』と兵隊三部作(『麦と兵隊』『土と兵隊』『花と兵隊』)ですね。」

小野恵さんと小野芳美さんのお薦めは、文学館が出している「文学館文庫」(17巻+別冊2巻)。「ゆかりの作家でも入手が難しい作品や、ゆかりの作家の児童文学を集めたアンソロジーなどを発行しているの、展示を見た後に興味があった作家の文庫を手にとっていただくとより理解が深まると思います」と小野恵さん。

森鷗外担当の小野芳美さんは、「生誕160年、小倉を離れて120年、没後100年と、今年は節目が重なった鷗外のメモリアルイヤーで、全国的にも話題

2021年度 友の会 決算

[21年4月1日～22年3月31日]

(収入の部)		
項目	決算額(円)	備考
会費	359,500	会費2,000円×179件 会費1,500円×1件(500円分は前年度納付)
特別企画展収入	3,737,211	特別企画展のグッズ販売手数料収入など
雑入	7	預金利息
前年度繰越金	626,186	
合計	4,722,904	
(支出の部)		
項目	決算額(円)	備考
入館料	103,760	定期券(480円×187人)89,760円 特別企画展(500円×28人)14,000円
特別企画展関連経費	3,287,156	特別企画展のグッズ販売委託料等
自主・共催事業関連経費	0	
会議費	5,460	お茶代
印刷費	80,520	友の会会報(年2回)印刷代
郵送料	127,855	切手、ハガキ、郵送料等
消耗品費等	737	ボランティア用品
予備費	0	
合計	3,605,488	

(収入の部) 4,722,904円 - (支出の部) 3,605,488円 = 1,117,416円(次年度繰越額)

活動報告

副会長の江口さん 子ども向け文章教室



友の会は、夏休みに本や言葉に親しんでもらうきっかけとなるように、読書感想文や詩の書き方について学べる子ども向けの講座を7月30日と8月20日、文学館で開きました。講師は友の会副会長で、北九州市内の小学校・中学校で教鞭をとった経験を

熱心に学びました。前半は、江口さんが本選の視点や文章の構成などを、資料をもとに丁寧に解説。後半は参加者が原稿用紙に構想を練りながら、江口さんやボランティアで参加していた友の会会員に質問をし、アドバイスをもらいました。終始、熱心に耳を傾け、書くことと向き合う参加者の姿が印象的でした。「今までは読書感想文を書くのが大変だったけれど、書き方がよく分かったので、今年からは教えてもらったことを生かして書いていこうと思います」「目からウロコでした。親でも指導が難しく悩んでいたところでした。申し込んでよかったです」といった声子どもたちや保護者から寄せられました。江口さんの「読書感想文を書くのは、自分のためです。本を読む前と読んだ後で自分に起こった変化を言葉にして記録することは、自分の成長の記録になるのです。」という言葉に、それぞれが書く意欲をかきたてられたようでした。

(友の会会員 大石仁美)

2022年度 友の会 予算

[22年4月1日～23年3月31日]

(収入の部)		
項目	予算額(円)	備考
会費	400,000	2,000円×200人
特別企画展収入	1,600,000	特別企画展のグッズ販売手数料収入など
雑入	10	預金利息
前年度繰越金	1,117,416	
合計	3,117,426	
(支出の部)		
項目	予算額(円)	備考
入館料	191,000	定期券96,000円 特別企画展95,000円
特別企画展関連経費	1,600,000	特別企画展のグッズ販売委託料等
自主・共催事業関連経費	50,000	特別企画展自主事業など
会議費	10,000	役員会お茶代等
印刷費	80,000	友の会会報2回分
郵送料	200,000	会報等郵送料
消耗品費等	40,000	
予備費	946,426	
合計	3,117,426	

(収入の部) 3,117,426円 - (支出の部) 3,117,426円 = 0円

活動報告

『かいけつゾロリ展』 10人がボランティア



特別企画展「かいけつゾロリ大冒険展」(7月16日～8月31日)に、友の会会員も計10人がボランティアとして参加しました。展示室の巡回やグッズ販売の補助、受付や誘導などを務めました。

子ども達の口コミで読み広がついていく力のある作品です。イラストも手がける原作者の原ゆたかさんによる色彩豊かでインスタ映えのする写真スポットも多く、幼児の顔に消毒液がかからない手消毒の仕掛けや、音の出る展示物、スタンプを押して完成させるゾロリの巻万円札などユニモアあふれる展示物、全作品が読めるコーナーやアニメの放映など、くつろぎながら楽しんでいる来館者の姿が印象的でした。2階の常設展と1階の企画展に分かれて観覧する3世代家族も見受けられ、それぞれの世代で展示を楽しんでいました。私もボランティアに参加して館内スタッフの方々の話も伺え、展示品の観覧だけでは気付けなかったポイントから企画展を楽しむことができました。美しいステンドグラスに照らされながら、高い天井の解放感と涼しさが心地よく、あつと言う間の時間でした。

(文責・仲紀子)

街の映画館復活を

友の会会長・加賀美清之

小倉昭和館館主の樋口智巳さんと出会ったのは、十二年前に樋口さんが3代目館主を引き継ぐ決心をして、博多から小倉に居を移した頃だと思ふ。そこから交流が始まり、湯布院映画祭、古湯映画祭などにも一緒にいったし、映画作品などに関する意見を求められることもあった。

で小倉昭和館を潰すことはできないと、デジタル化に踏み切った。

初めの頃こそ、聞き役に徹していたが、いつの間にか立場が逆転し、こちらが色々な映画情報を樋口さんから聞くようになった。樋口さんの明るく人間味にあふれた人柄は多くの人たちを引き付け、小倉昭和館ファン・樋口さんファンの輪ができていった。

一方でデジタル化によるメリットもあった。上映に関する時間、手間、コストがフィルムより大幅に削減され、これまでできなかった映画上映以外のイベントが可能になり、映画館の可能性が広がった。サッカー等のスポーツ中継や人気アーティストのライブ上映、映画の初日の舞台あいさつにも中継をつなぐことができる。デジタル化によるコスト削減等により、ゲストを招いてのトークショーも今まで以上に可能となった。

2008年頃から、映画館の上映もデジタル化が必須となったが、デジタル機材を導入するには多額の資金を必要とした。ミニシアターではこの負担は厳しく、存続の危機に立たされ廃業する映画館が相次いだ。しかし樋口さんは、自分の代

いた女優の有馬稲子さんを招いてのトークショーがある。樋口さんは、有馬さんと交流がある映画評論家を通して、有馬さんを引っ張り出したのだ。この催しは大盛況で、小倉昭和館の存在を大きくアピールした。樋口さんはデジタル化によ

小倉昭和館にとつて最大の危機だが、街の映画館をなくすことはできない。樋口さんの情熱、多くの人々の思いが消えない限り、且過市場の再建の中核として小倉昭和館が再開される日がきつと来るだろう。

可能性を最大限に生かし、多彩なイベントを展開した。

さて、文学館と樋口さんのことである。文学館「友の会」が発足したのは2013年。私も縁あって「友の会」立ち上げに関わったが、その時に、ちゅうちよなく樋口さんを理事に推薦した。その企画力、実行力、人間力は「友の会」に必要であると思ったからだ。

思惑通り、文学館の企画展にあわせての関連作品の上映など、樋口さんは文学と映画のコラボレーションを図り、北九州市の文化発展に大いに貢献してきた。そこに発生したのが、2度にわたる且過市場の火災である。4月の火災では被害を免れたが、8月10日の火災で、83年の歴史をもつ小倉昭和館は跡形もなく焼けてしまった。

小倉昭和館にとつて最大の危機だが、街の映画館をなくすことはできない。樋口さんの情熱、多くの人々の思いが消えない限り、且過市場の再建の中核として小倉昭和館が再開される日がきつと来るだろう。

稲田さんは「入って半年ほどで担当した職場雑誌展は、大学の先生の目に留まり別途研究が始まった。宗左近についても、友の会の大川内夏樹さんとのつながりから研究が進むようになった。仕事が次のステップにつながっていった時が一番よかったと思う」。

小野恵さんは「一番印象に残っているのは林芙美子展。芙美子の資料を見るために東京や長野などに調査に行きました。原稿や日記などを目の前で見ることでできた感動は今も忘れていません」と話してくれました。

文学館を訪れても、なかなか学芸員の皆さんと会う機会はありませんが、どういった人たちが文学館を支えているのかを知ると、常設展示や展覧会などにも興味がいよいよ湧いてきますね。

小倉昭和館が北九州市立文学館の企画展に合わせて協賛上映した作品

- 2013年5月 生誕100年林芙美子展
「浮雲」「下町(ダウントウン)」、
岩下俊作「無法松の一生」、
火野葦平「花と龍」、松本清張「砂の器」
- 2013年12月
恋と革命に生きた女たち展
瀬戸内寂聴「夏の終わり」、
トルストイ「アンナ・カレーニナ」
- 2014年6月
モンゴメリと花子の赤毛のアン展
「アンを探して」「少女は自転車にのって」
- 2015年5月
夏目漱石一漱石山房の日々展
「それから」「ユメ十夜」
「坊っちゃん」「こころ」
- 2015年12月
ブンガク最前線—北九州発展
村田喜代子「蕨野行」「八月の狂詩曲」、
タナダユキ「ロマンス」、
松尾スズキ「ジヌよさらば」
- 2016年10月
没後20年司馬遼太郎展
「梟の城」「御法度」
- 2017年11月 生誕90年藤沢周平展
「果し合い」「遅いしあわせ」
「必死剣鳥刺し」「隠し剣 鬼の爪」
- 2019年9月
倉本聰の仕事と点描画展
「ブルークリスマス」「冬の華」
- 2020年11月 没後60年火野葦平展
「女侠一代」、松本清張「点と線」



今年4月29日、且過市場の大火から10日ぶりに営業を再開した折の樋口さん。たぐさんの来館者に声を詰まらせた。

1面から続く